

建築ジャーナル

2012年
February
No.1195

第1195号
2012年2月1日発行
(月1回・1日発行)
1964年7月13日
第3種郵便物許可
ISSN 1343-3849

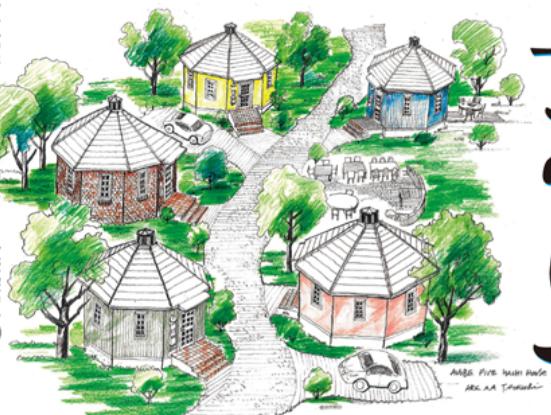
2
定価
900円
(税込み)

死の空間を豊かにする 特集



安波山「鎮魂の森計画」=石山修武

短期間、低コストながら
上質な住空間
「HACHI HOUSE」
—堀内恒夫



ジャーナルギャラリー

大阪中央郵便局庁舎の解体は
誰のためなのか —南一誠



久我山の家 篠原一男
小野暁彦

名作住宅の
構造デザイン②
林昌二氏
追悼
椎名政夫

今でも多くのご遺体が瓦礫の下に埋もれているだらうと考えると、復興と称して、建築を建てるに強い嫌悪感を持ちました。復興の前に震災で亡くなつた人々の靈を何かのかたちで鎮め、敬うことが大優先ではないかと(石山修武 建築家早稲田大学建築学科教授)。名取市は火葬場の仮復旧に全力が注がれた。親族の悲しむ顔を3度も見たくない。仮埋葬を行うときに1度、掘り返したときに2度目、火葬をするときには3度目。仮埋葬を行わなければ泣くのは火葬をするときの1度で済むからだ。(武田至 火葬研代表理事)。

●石山修武 | 復興より鎮魂を。
自然と共生したまちづくりへ舵を切れ ●山崎築作 | 心ゆきまで見送りのできる新三次市斎場 ●武田至 | 東日本大震災でわかった火葬場のあり方 ●針生承一 | 震災では命を守った名取市斎場の全面復旧急げ

各地域に拠点を置く設計事務所の
建築集